

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25360032

研究課題名(和文) ロシアと中央アジアにおける労働力移動とジェンダーの変容：少子高齢化社会を背景に

研究課題名(英文) Transformation of gender and labor migration in Central Asia and Russia--
Background to the low birthrate and aging society

研究代表者

五十嵐 徳子 (IGARASHI, NORIKO)

天理大学・国際学部・教授

研究者番号：80294156

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：ロシアと中央アジアにおける労働力移動とジェンダーの変容を高齢者ケアの観点から明らかにするために、文献資料および現地での聞き取り調査結果を使用した。

その結果、高齢者介護に関する法律は実在し、公的介護施設や在宅介護制度も整っているようではあるものの、非常に限られた高齢者しか実際には利用できないことが明らかになった。多くの場合、親戚を含めた家族総動員で高齢者介護をやりくりしており、負担は主に女性が担っている。また、ロシアでは公的および民間のケアを利用せず、ツテを使って個人的にシジェルカとして高齢者介護をケアする人を探すという方法が広がっている。今後、移民労働者が高齢者介護を担う可能性も排除できない。

研究成果の概要(英文)：This is to analyze the transformation of gender and labor migration in Central Asia and Russia, based on the existing bibliographical sources and interviews. The analysis based on the survey on the elderly care in Russia revealed the followings: 1) The laws regarding to elderly nursing care does exist, and public caring facilities and in-home caring system are seemingly well-framed; 2) Very limited number of elderlies can actually make use of the services; 3) Family and relations are trying to manage to care for their elderly at present in Russia; 4) Elderly nursing care always falls predominantly on women; 5) It is more common in Russia to find Sidelka through their personal connections, rather than to avail themselves of the public or private nursing care systems.

Migrant workers should not be ignored as the support and driving force in the field of the elderly nursing care in future Russia, Further and closer observation is to be conducted of this issue.

研究分野：地域研究

キーワード：高齢者ケア ロシア 中央アジア ジェンダー シジェルカ 労働力 移民 家族

1. 研究開始当初の背景

本研究の着想に直接的なきっかけを与えた研究は、平成 22～24 年度科学研究費補助金基盤研究(C)『ロシアにおけるジェンダー研究 少子高齢化の視点から』(研究代表者)平成 23～25 年度科学研究費補助金基盤研究(B)『ロシアにおける出生規定要因の総合研究：ミクロデータによる多層的接近』(分担研究者)である。前者はロシアのジェンダーの状況について女性の就業を取り巻く環境を中心に分析をした研究である。また、それと関連した後者では、ロシアの出生規定要因に家庭内分業がどのように関係しているのかということ进行分析している。それらの中で明らかになった事は、ソ連時代同様、女性の就業率は高いが、家庭内分業が進んでいないために女性の負担が大きいということである。具体的には、育児に関しては、地域による若干の差はあるものの、就学前施設はかなり充実しており、国、地域、家族によるサポート体制が認められた。しかし、ソ連時代と異なり、2～3 歳から子どもを預かる施設が圧倒的に多く、育児のほとんどを女性が担っていることを確認した。また、平均寿命の延長や経済的要因により、年金受給以後も働きつづける女性が増加し、祖母の支援が減少し、母親の育児の負担は増加している。老人介護では、介護制度が整っていないために、家族での介護が一般的であり、特に娘の負担が大きい。このような育児、介護をめぐる環境の中で、近年、民間や私的なベビーシッターや家政婦を利用することが広がりつつある。家事、育児、介護といったケア労働の担い手が安い労働力である中央アジアからの女性たちによって代替されている。これらの女性たちは故郷に子どもたちを残してきており、母国のジェンダー状況も大きく変化してきていることが予想される。以上のような経緯から新たな研究課題が生まれた

2. 研究の目的

本研究では、ロシアと中央アジアにおける労働力移動とジェンダーの変容について明らかにする。特に、少子高齢化が進行するロシアにおける中央アジアからの女性移民労働者に焦点を当てる。具体的には、ロシアにおける中央アジアからの女性労働移民の実態について解明する、ロシアで就労する移民女性の母国におけるジェンダーの変容について分析する、女性移民労働によるロシアのジェンダー状況の変容を把握する。そして、これら 3 つの課題を総括する。

3. 研究の方法

(1)ロシアと中央アジアにおける労働力移動とジェンダーの変容について明らかにするために、まず、文献研究を行った。ロシアと中央アジアのジェンダーに関係のあるロシア語文献を中心とした資料をペテルブルグ公共図書館を中心に収集し分析した。ま

た、国際比較のために日本語の文献、英語の文献も収集し検討の対象としている。

(2)文献研究と同時に本課題にとって欠かすことのできないのは、現地調査である。ロシアでは、ペテルブルグを中心にロシアに出稼ぎに来ている移民女性に対して聞き取り調査を行った。また、ペテルブルグ大学、NPO 団体子供の家、ムスリム新聞社、ユダヤ人センター、独立社会調査センター、サンクトペテルブルグ医療・社会プログラム慈善社会ファンド“人道的アクション”、ホームレス支援 NPO、ユダヤ人協会、幼稚園等で調査を行った。

移民送り出し国であるタジキスタンのフジャンドでは、ロシアで仕事をしたことのある家族を中心に聞き取り調査を行った。また、タジキスタンに独特の行政街区(日本の町内会のようなもの)であるマハリヤのボランティア慈善団体の女性委員達にマハリヤでの生活と実際にどのくらいの規模でロシアへ出稼ぎに行っている人がいるのかについてインタビューした。国境地帯にあるロシアの大学分校の学長へのインタビュー、首都ドシャンベの方向に位置する南の山岳地帯のシャフリスタン地区で経済貿易大学教授に山岳地域での移民の現状についても聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

(1)平成 25 年度には、ペテルブルグにおいて、ペテルブルグ大学、NPO 団体子供の家、ムスリム新聞社、ユダヤ人センター、独立社会調査センター、および移民女性へのインタビューを実施した。また、移民送り出し国であるタジキスタンのフジャンドでは、ロシアで仕事をしたことのある家族を中心に聞き取り調査を行った。増加している中央アジアからの移民の置かれている状況および特に女性移民の労働状況についていくつかの事例を聞き取り調査することによって得ることができた。

(2)25 年度から継続しているウズベキスタンおよびタジキスタンからの移民女性へインタビューを行った。26 年 8 月に、特にウズベキスタンのサマルカンド、ブハラ、ウルゲンチ出身の女性を中心に行った。ロシアで移民女性をつく職業としては、掃除婦、キヨスクの野菜や果物の売り子が最も多く、さらにアルバイトで高齢者の家政婦の仕事もしている人もいる。また、移民の法的な支援を行っているイブリャノバ氏に実際にどのような問題を移民女性が抱えているのかについて伺いそれに対して、弁護士の立場としてどのような救済措置をとっているのかについてインタビューした。サンクトペテルブルグ医療・社会プログラム慈善社会ファンド“人道的アクション”の代表ドゥギン氏にもインタビューした。ファンドは、ペテルブルグの

麻薬中毒女性、風俗で働いている女性への救済を行っている団体である。その多くはロシア人女性であるが、最近の傾向として移民も見られるが、中央アジアからの女性は少ないようである。しかしながら、風俗を利用する客の中には中央アジアからの男性移民が増加しているということである。

また、27年3月にもタジキスタンとロシアで調査を行った。フジャンドでは、タジキスタンに独特の行政街区（日本の町内会のようなもの）であるマハリヤのボランティア慈善団体の女性委員達に、マハリヤでの生活と実際にどのくらいの規模でロシアへ出稼ぎに行っている女性がいるのかについてインタビューした。ロシアでベビーシッターをしている女性の話や、家政婦やシッターなどの仕事をしていてもいい、つまり何でもいからロシアで働きたいという彼女たちの本音を聞くことができた。また、国境地帯にあるロシアの大学分校の学長へのインタビューからこの大学の卒業生はロシアあるいは本国でいわゆるエリートとして仕事をするチャンスが大きく、ロシア語の地位が旧ソ連特に中央アジアでは高いことが分かった。首都ドシャンベの方向に位置する南の山岳地帯のシャフリスタン地区で経済貿易大学教授に山岳地域での移民の現状についてお話を伺った。ペテルブルグでは、ペテルブルグ大学のホドレバ氏のご助力により、ロシアのホームレスを支援する慈善団体の法律担当者に移民とホームレスとの関係および高齢化対策に関する新しい法律について伺った。また、ユダヤ人のための高齢者介護サービスを行っているNPO代表に、ペテルブルグにおける高齢者介護の実情について説明を受けた。このNPOはペテルブルグ市と契約してユダヤ人以外の高齢者のケアも行っている。2015年1月から新しい社会サービスに関する法律が施行され、これについても資料を入手した。

(3)平成27年度には、ペテルブルグ大学のホドレバ氏へのインタビューを3月11日行った。2015年1月から始まった移民がロシアで労働するための許可書を取得するためのロシア語等のテストの状況、それによって移民の置かれている状況がどのように変化しているのかについてうかがった。また、3月12日はこれまでに家政婦を雇って身内の高齢者介護をしていたロシア人、またヘルパーとして働いていたロシア人女性にインタビューした。3月13日はペテルブルグ郊外のヴィレツという町に住んでいるロシア人老夫妻に介護についてインタビューした。3月14日はロシアの公共図書館で資料収集をした。また、3月14日はロシア郊外のクロンシュタットの状況について調査を行った。また同日ロシアで現在よく聞かれる高齢者が自分の家と引き換えに介護を受けたりするレンタという制度について不動産鑑定士に話をきいた。3月16日はロシアの古文書で資料

収集と自分の親を介護している女性にインタビューした。3月17日はペテルブルグに住む80歳近い高齢者夫婦へインタビューを行った。またユダヤ人協会の所長に協会の介護部門のお話を聞くとともに2015年1月に施行された新しい社会保障に関する法律後の状況についてお話を伺った。今回の調査により2015年1月に施行された2つの法律採択後の介護状況と移民の状況について詳しく知ることができた。

(4)ロシアにおける高齢者介護の実情を調査結果に基づいて分析をした結果明らかになったことは、高齢者介護に関する法律は実在し、公的介護施設や在宅介護制度も整っているようではあるものの、非常に限られた数の高齢者しか実際には利用できない。現在のロシアでは多くの場合、親戚を含めた家族総動員で高齢者介護をやりくりしており、その負担は常に主に女性が担っている。また、ロシアでは公的なケアや民間のケアを利用するのではなく、ツテを使って個人的にシジェルカとして高齢者介護を引き受ける人を探すという方法が広がっている。今後、移民労働者が高齢者介護を担う可能性も排除できない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

IGARASHI Noriko

Некоторые результаты анализа проблем престарелых и ухода за ними в российской литературе и кино (ロシア文学と映画における高齢者介護問題の一考察) Japanese Slavic and East European Studies, Vol.36, 2016 (掲載確定) 査読有

IGARASHI Noriko

Women's Voices: Gender Survey in Tajikistan, 共著 Hitotsubashi Journal of Social Studies, vol.47, no.1 co-authored with Kazuhiro Kumo, 2016, 査読無, pp.11-30

五十嵐徳子

「ロシアの同性愛をめぐる状況とジェンダー」『現代思想』10月号 vol.43-16, 2015, 青土社、査読無 pp.185-191

五十嵐徳子

「ロシアの高齢者ケア事情をジェンダーからみる ペテルブルグにおけるケーススタディ」『現代社会と会計』第9号、関西大学大学院会計研究科, 2015, 査読無, pp.19-34

IGARASHI Noriko

Гендерная Ситуация в России с точки зрения снижения коэффициента рождаемости и старения населения по сравнению с Японией(少子高齢化社

会におけるジェンダー ロシアの場合：
日本との比較から) (単著)
Материалы XX
Российско-Японский Симпозиума
Историков и Экономистов ДВО РАН и
Района Кансай(Япония)", Дальнаука,
Владивост , 2014, 査読無、72-85

(1) 研究代表者
五十嵐 徳子 (IGARASHI NORIKO)
天理大学・国際学部・教授
研究者番号 : 80294156

〔学会発表〕(計6件)

五十嵐徳子「アラフォー、アラフィフ、
アラカン女性を通してみるロシア」(単
独) 第31回日口極東学術シンポジウム、
ロシアウラジオストック科学アカデミー
極東支部考古学・民俗学・歴史学研究所、
2015年9月10日

Igarashi Noriko Senior Generation in
Russia as a Periphery of Society、単
独、国際シンポジウム(於幕張) ICCEES
IX World Congress 2015年8月6日

IGARASHI Noriko Gender Situation in
Russian Society: From the Perspective
of a Decreasing Birthrate and an Aging
of Population 単独 国際シンポジウ
ム ICCEES IX World Congress (於幕張)
2015年8月5日

五十嵐徳子「ロシアにおける人と生活、
境界線のジェンダー 少子高齢化から
見る」ロシア・東欧学会 2013年研究
大会共通論題「ロシア・東欧における人
と生活、境界線」第2セッション パネ
ル・ディスカッション、2013年10月5
日、津田塾大学

五十嵐徳子「少子高齢化社会におけるジ
ェンダー ロシアの場合：日本との比較
から」(単独) 第29回日口極東学術シ
ンポジウム、ロシアハバロフスク科学ア
カデミー極東支部経済研究所、2013年9
月4日

五十嵐徳子「少子高齢化社会におけるジ
ェンダー ロシアの場合：日本との比較
から」(単独) 第29回日口極東学術シ
ンポジウム、ロシアウラジオストック科
学アカデミー極東支部考古学・民俗学・
歴史学研究所、2013年9月2日

〔図書〕(計1件)

五十嵐徳子(単著)『ロシアで生きる ソ
連解体と女性たち』東洋書店、2014年5
月

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等